

## ARTZONE 特別企画

# 『空間の境界をめぐる6つの対話』

### INTRODUCTION

このたび、art project room ARTZONEでは、日本、ドイツの14人のクリエイターによるインスタレーションとトークセッションから成る『空間の境界をめぐる6つの対話』を開催します。

近年の世界的な経済不況による失速感。そして先頃の東日本大震災。有無をいわず突然に日常が打ち砕かれ、これまでの方法では立ちゆかなくなるといった実感が、毎日の生活にも拡がりはじめています。その拡がりには、安全と危険、当事者と傍観者、内と外、遠い近いといった距離感など、これまで何気なく通り過ぎてきた目に見えない境界をあらわにさせ、あるいは霧散させ、私たちを立ち止まらせるきっかけとなりました。

本展に参加するクリエイター達は、様々なジャンルの境界を横断しながら日本や世界各地をダイナミックな距離感で日々創造的に活動しています。彼らはそれぞれの領域—いわゆる肩書きを超えた具体的なツールを扱って仕事をし、新しい場や、人と人の共有空間の形成に向かっていくかのようです。

境界はどこにあるのか/ないのか？ 境界は自分でつくるのか/消し去るのか？ 境界は自由を剥奪するのか/自由を守るのか？ 様々な問いがARTZONEの空間に渦巻きます。週末の対話シリーズでは、各回1組のジャンルの違うクリエイターが、それぞれの境界をめぐる活動をプレゼンテーションしあい、対話が始まります。来場者を含めたその日の発言やその場で起こった出来事は、来場者の意見を含めて即刻ARTZONEのスペースに写し取られてゆきます。一方、ドイツ人作家によるビデオインスタレーションでは、ひとつの物語をふたつの手振りで表現した2カ国語の手話による1組の作品“インビジブル—目に見えぬ人々の物語とエヴァの不揃いなこどもたち”が、鑑賞者自身の感覚に差異と相似の直接的な対話を引き起こします。

本展が、第一線で活躍するクリエイターたちがこれまで培ったことと、これからも続けていくものを目撃する場となり、さらに生活をクリエイイトする全ての人にとって、この困難で可能性に満ちた時代を生き抜く手掛かりとなることを願っています。

## INFORMATION

■展覧会名：『空間の境界をめぐる6つの対話』

■会期：

- 展示期間 2011/5/21(土)～6/5(日)
- クロージングパーティ 2011/6/4(土)17:00～20:00
- レセプション 2011/5/21(土)・22(日)、5/27(金)・28(土)・29(日) 対話終了後

■プログラム：

- 対話1 5/21(土) 対話 18:00～20:30  
『空間と制度の境界をめぐる対話』  
吉村 靖孝 (建築家) × 長谷部 文子 (経済産業省四国経済産業局 勤務)
  
- 対話2 5/22(日) パフォーマンス 14:00～ 対話 18:00～20:30  
『身体と空間の境界をめぐる対話1』  
島田 陽 (建築家) × 華雪 (書家)
  
- 対話3 5/27 (金) 対話 18:00～20:30  
『空間と経験の境界をめぐる対話』  
谷尻 誠 (建築家) × 名和 晃平 (彫刻家)
  
- 対話4 5/28 (土) 対話 13:30～16:00  
『言葉と空間の境界をめぐる対話』  
倉方 俊輔 (建築史家) × 蘆田 裕史 (京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーター)
  
- 対話5 5/28 (土) 対話 18:30～21:00  
『身体と空間の境界をめぐる対話2』  
家成 俊勝 (建築家 dot architects 共同主宰) × 塚原 悠也 (CONTACT GONZO・ダンサー)
  
- 対話6 5/29 (日) 対話 16:00～19:30  
『空間と方法の境界をめぐる対話』  
藤村 龍至 (建築家) × 服部 滋樹 (graf 代表・デザイナー・クリエイティブディレクター)

■ インスタレーション：

- エヴァの不揃いなこどもたちヤコブ・グリム（映像作品：ドイツ語手話 × 日本語手話）
  - ハルダマンナ・サーガヨン・アルナソン（映像作品：ドイツ語手話 × 日本語手話）
- 他、対話参加クリエイターによるインスタレーション

■ 参加費：

- 各回 500 円(クロージングパーティーを含む。インスタレーションのみの入場は無料。)

■ 会場：

- art project room ARTZONE  
京都府京都市中京区河原町三条下ル一筋目東入ル大黒町 44 VOX ビル 1・2F
- ホームページ <http://www.artzone.jp/>

■ お問い合わせ：TEL 075-212-9676

■ 主催：art project room ART ZONE

- 対話デザイン・モデレーター：藤原 徹平
- 企画・制作：仲野 安紗
- 企画協力：NPO 法人ドリフターズインターナショナル、増崎 真帆
- 協力：京都造形芸術大学 芸術表現・アートプロデュース（ASP）学科、NEC ディスプレイソリューションズ株式会社、An Paenhuysen、Charlotte Friling

■ アクセス：



■ ゲストプロフィール：

モデレーター 藤原 徹平

1975 年横浜生まれ、横浜国立大学大学院修了。2001 年より隈研吾建築都市設計事務所勤務、現在同事務所設計室長。2008 年より横浜国立大学非常勤講師、2009 年よりフジワラテッペイアーキテクツラボ代表、2010 年より NPO 法人ドリフターズインターナショナル理事、東京理科大学非常勤講師。

#### 吉村 靖孝

建築家・吉村靖孝建築設計事務所 代表。早稲田大学・東京大学大学院・東京工業大学非常勤講師。1972年生まれ。1997年早稲田大学大学院修了、1999年～2001年 MVRDV 在籍、2005年吉村靖孝建築設計事務所設立。著書に「EX-CONTAINER」(グラフィック社)、「超合法建築図鑑」(彰国社)等 日本建築学会作品選奨、東京建築士会住宅建築賞金賞(Nowhere but Sajima)、吉岡賞(ドリフト)ほか受賞多数。

#### 長谷部 文子

経済産業省四国経済産業局 勤務。1978年生まれ。イサム・ノグチ、猪熊弦一郎、丹下健三……。近代デザインの歴史のなかで数多くの巨匠が足跡を残し、現代アートのメッカにもなりつつある香川県で生まれ育つ。2001年、経済産業省四国経済産業局入局。クリエイティブな化学反応が起こる状況づくりを意識しながら“ものづくり”から“まちづくり”まで携わる。近年では『「四国らしさ」って、なんだろう？ノート』や『しこく編集学校』など。

#### 島田 陽

建築家。1972年神戸生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。在学中からセルフビルドで幾つか仮設建築を建て続けており、それを見た友人の家族からの依頼で大学院修了後、直ちに設計活動を開始。ほぼ独学で今に至る。1997年タトアーキテクツ/島田陽建築設計事務所設立。主な作品として〈西脇の集会所〉-2002、〈北野町の住居2〉-2008、〈比叡平の住居〉-2010などがある。

#### 華雪

書家。1975年京都生まれ。幼少より通い始めた書道教室で文字と言葉に興味を持ち、書と篆刻(印刻)に親しむ。中国の古典などを学ぶ傍らで、なぜその字を書くのか、字が書かれる背景を常に自身に問いかけながら1992年より個展を中心に活動を続ける。刊行物に「静物画」(2001年、平凡社)、「石の遊び」(2003年、平凡社)、『書の棲処』(2006、赤々舎)、『ATO跡』(2009.between the books)などがある。自身の制作の他にも、各地でワークショップも行っている。 [www.kasetsu.info](http://www.kasetsu.info)

#### 谷尻 誠

建築家。1974年、広島県生まれ。穴吹デザイン専門学校卒業後、2000年 suppose design office 設立。これまで手がけた住宅は60軒を超え、その他、商業空間、会場構成、ランドスケープ、プロダクトと、仕事の範囲は多岐に渡る。2008年より、広島・東京の二カ所を拠点とし、国内外合わせ現在30を超えるプロジェクトが現在も進行中。JCD デザインアワード新人賞、GOOD DESIGN 賞、平和大橋歩道橋設計国際競技ファイナリストなど。

#### 名和 晃平

彫刻家。1975年生まれ。京都造形芸術大学准教授。彫刻家として、現代美術の領域で注目を集める。独自の「PixCell = Pixel(画素) + Cell(細胞・器)」という概念を機軸に、多様な表現を展開する。2009年より京都・伏見区にクリエイティブプラットフォームとして「SANDWICH」を立ち上げた。2011年6月には京都現代美術館で個展「SYNTHESIS」を開催。[www.kohei-nawa.net](http://www.kohei-nawa.net) <http://sandwich-cpca.net>

#### 倉方 俊輔

建築史家。大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻准教授。1971年東京生まれ。早稲田大学大学院博士課程満期退学。博士（工学）。著書に『吉阪隆正とル・コルビュジエ』（王国社）。共著に『建築家の読書術』（TOTO出版）、『東京建築ガイドマップ--明治大正昭和』（エクスナレッジ）、『見えない震災』（みすず書房）、『吉阪隆正の迷宮』（TOTO出版）、『伊東忠太を知っていますか』（王国社）ほか。

#### 蘆田 裕史

京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーター。1978年、京都生まれ。京都大学大学院博士課程研究指導認定退学。現在、京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーター、京都造形芸術大学非常勤講師。専門はファッション論・服飾史・美術史。ファッション批評誌『fashionista』を水野大二郎との共同責任編集により2012年2月創刊予定。<http://changeofashion.net/blog/ashida/>

#### 家成 俊勝

建築家。dot architects 共同主宰。1974年、兵庫県生まれ、兵庫県在住。関西大学法学部法律学科卒業後、大阪工業技術専門学校を経てドットアーキテクトを共同で主宰。建築における設計、施工のプロセスにおいて専門家、非専門家に関わらず、様々な人々を巻き込む、超並列設計プロセスを実践。建築を専門としながら他分野の人々との協働プロジェクトにも多く携わる。京都造形芸術大学非常勤講師。大阪工業技術専門学校夜間部非常勤講師。DESIGNEAST ディレクター。

#### 塚原 悠也

CONTACT GONZO・ダンサー。1979年生まれ。2006年より友人たちと公園で厳かに殴り合い、また高いところから飛び降りたりする過程で[contact Gonzo]を開発し、そのメソッドを元に即時的、トラッシュ的に都市と人と関わる。これまで南京トリエンナーレ、プラットフォーム・ソウル、横浜国際映像祭、HARAJUKU PERFORMANCE+、吾妻橋ダンスクロッシング、六本木クロッシング、インドネシアダンスフェスティバルなどに参加。関西学院大学文学部美学専攻修士課程修了

#### 藤村 龍至

建築家。1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005年より藤村龍至建築設計事務所主宰。2010年より東洋大学専任講師。2007年よりフリーペーパー『ROUNDABOUT JOURNAL』企画・制作・発行。2010年よりウェブマガジン『ART and ARCHITECTURE REVIEW』企画・制作。主な編著書に『1995年以後』（2009）

#### 服部 滋樹

graf 代表・デザイナー・クリエイティブディレクター。京都造形芸術大学情報デザイン学科教授。1998年「Structure for Living 暮らしの構造」を考えるクリエイティブユニット"graf"をスタート。デザインとアート、日常と非日常を行き来し、様々な領域で表現。空間、家具、建築設計、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、ブランディングに至るまでプロジェクトごとに幅広い活動を行っている。